

信仰の量り(16)

「私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。」(ローマ12:3)

今回は、人間耕作を受けて肉の性質を捨て、御霊の実を結びながら日々信仰が成長して、信仰の四段階に入った人が将来受ける天国の栄光について語ります。

1. 霊が生き返って御霊の人になれば

霊とは朽ちないで変わらないもの、永遠でまことのものです。〈ヨハネ4:24〉に「神は霊ですから」とあるとおり、創造主の神の属性でもあります。神様は人を造られたとき、聖であり永遠である神の属性の一部を分け与えられました。それで、最初の人アダムはいのちの息が吹き込まれて、生きものとなったのです。しかし、アダムは罪を犯したので、永遠でまことである霊の属性を失って、肉にすぎない存在に墮落してしまいました(創世記6:3)。

肉とは「霊と反対になるもので、変わるもの、朽ちるもの、醜くてむなしなもの」です。アダムが罪を犯した後に生まれた人々は、みな肉の人として生まれ、それで、彼らがすべき重要な課題は、肉の人から御霊の人に帰ることです。そのためには、聖められればよいのです。心の罪と悪を捨てるとき、すなわち、朽ちて変わる肉の属性を捨てるとき、霊である神のかたちが取り戻せます。このように御霊の人に変えられれば、最初の人アダムが持っていた霊の属性を取り戻すだけでなく、それよりもっと素晴らしい神の子どもたちになります。最初の人アダムはその鼻に神のいのちの息を吹き込まれた「生きもの」でした。これは、いのちの息、つまり神の霊が吹き込まれたので、神様と交わる存在になったという意味でもあります。しかし、自由意志によって罪と悪を受け入れて、肉にすぎない存在に墮落してしまい、神様との交わりができなくなったのです。

最初の人アダムは死と涙、悲しみ、苦しみはもちろん、肉がどれほど悪いものか、体験したことがありませんでした。そのために神様が「霊は良いもの、肉は悪いもの」と教えてくださったのも、心に留められなかったのです。

一方、人間耕作を受けて、肉から霊に変えられた人々は、肉がどんなものなのか骨身に凍みるほど体験して、反対に、死がなくて悲しみと苦しみが少ない霊がどれほど良いものかをとてもよく知っています。ですから、どんなに感嘆されても、再び罪と悪を受け入れられないのです。まさにこれが、私たちがこの地上で人間耕作を受けている意味です。

このような人間耕作を通して世のすべてのものがむなしさを悟って、熱心に霊を慕って、信仰の一段階から二段階、さらに三段階に入って、ついに信仰の四段階になったとき、御霊の人に帰るのであり、神の子どもとされた特権と祝福が思いきり受けられます。

2. 信仰の四段階の人が入る三天層の祝福

行なったとおり報いてくださる公義の神様は、天国の場所と報いも、信仰の量りに応じて与えられます。もちろん、すべての天国の場所はこの地上とは比べられないほど幸せなところ。どんな真理に逆らうものも、暗やみもないところであり、愛と喜びだけがあるところ。天国のあちこちには美しい天使がいて、甘美な賛美が流れて、うっとりするほど美しい環境の中で愛する人々と永遠に生きていきます。この



堂会長イ・ジェロク牧師

ような天国の栄光も、信仰の四段階と信仰の三段階、すなわち、御霊の歩みに入ったのとそうでないものには、大きい違いがあります。たとえば、パラダイスや一天層、二天層には多くの天使がいて、天国を管理して、時に応じて神の子どもたちを助けます。しかし、二天層以下では、ひとりひとりに個人的に付き従う天使がいるのではありません。三天層以上の天国に入るとこそ、個人的に付き従う天使がいるのです。その中でも、どれほど聖められたのか、どれほどより大きい信仰と従順の行ないで神様に喜ばれたかによって、付き従う天使の数が変わります。

雲の自家用車に乗るのも、三天層以上に入らなければなりません。天国にある雲は天国の栄光と美しさを増すために造られた、一つの装飾品のようなものです。エジプトから出てきた当時、神様がモーセに現れた時も、雲の中に降りて来られました。また、イエス様が変容山に登られた時は、雲の中から神様の御声が聞こえました。

〈マタイの福音書26:64後半節〉には「今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るようになります。」というイエス様のことが記されています。その他にも、聖書のあちこちに出てくる天国の雲は、神様の栄光を表す装飾品のようなものです。それはまるで自家用車のように、神の子どもたちを乗せて行きたい所に移動するようにしてくれるのです。新しいエルサレムの栄光に入った人々でこそ、個人所有の雲の自家用車が与えられます。三天層に入った人は共有の雲の自家用車に乗れます。

この他にも、二天層以下の人々と三天層以上に入った人々には、表の姿だけ見ても大きい違いがあります。各人から放たれる栄光の光が違って、服と服の模様、ついている装飾、ヘアスタイルなどが違い、その人がどれほど主に似せられて聖められた人なのか、どれほど神様の愛される人なのかが見分けられます。

そのような特徴の一つが、女性の場合、髪の長さです。男性はみな首の線くらいまでですが、女性の髪は報いによって長さが変わってくるからです。〈第一コリント11:15前半節〉に「女が長い髪をしていたら、それは女の栄光であるということです。」とあるように、三天層と新しいエルサレムの女性には、長くて見事な髪が栄光ある報いとして与えられます。新しいエルサレムでは、脊椎の端まで届くくらい長い髪を持つようになり、三天層ではそれより少し短くて、脊椎の中

どまでです。

それでは、三天層の家はどのように建てられているのでしょうか。二天層の建物は一階建てです。一方、三天層からは二階建てで、純金と宝石で飾られていて、美しく香り高い花と木で飾られた庭園と湖があります。湖の中にはたくさんの魚がいますが、その魚たちとほまえない会話をすることもできます。

もちろん、二天層でも、個人の家についている湖を持つこともできるし、ゴルフ場でも、水泳場でも、散歩路でも持つこともできます。ただし、どんな施設でも一つだけ選べます。しかし、三天層は一つだけでなく、願うものをみな所有することができます。こういう施設がある三天層の邸宅は、世の億万長者でもまねできないほどうっとりするように飾られています。ただし、二天層と違う点は、家に表札がないということです。家そのものからその主人の心が感じられる独特の香りが流れているので、主人が誰なのか自然にわかるからです。各人の霊的な香りが違うように、その家から流れる香りが違うだけでなく、家から放たれる光も、それぞれ違うのです。

天国には、この地上の動物とは比べられないほど、美しく華麗で、賢くておとなしい動物と鳥がいます。天国の聖徒たちを楽しませてくれるし、互いに話することもできます。三天層では、天国の動物と鳥がペットのように個人に与えられますが、これは二天層にいる動物よりもはるかに華麗で美しいし、かわいいです。

一天層や二天層にそれぞれの冠があるように、三天層に入った人々にも、三天層にふさわしいいのちの冠が与えられます(ヤコブ1:12)。〈ヨハネの黙示録2:10後半節〉に「死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。」とあります。ここで「死に至るまで忠実である」とは、殉教の信仰をもって神の国のために忠実を尽くすことを言います。与えられた使命を果たすだけでなく、世の真理に逆らうものと妥協せずに、罪と戦って、血を流すまで抵抗して捨てた人、完全に聖められた人でこそ「死に至るまで忠実であった」と言えます。

三天層に入った人々は聖められて、いのちを尽くし、死に至るまで忠実であった人々ですから、それに対する報いとしていのちの冠を受けるのです。たとえ完全に聖められなかったとしても、主の御名によって信仰をもって殉教した人々は、三天層にこだまるようになって、いのちの冠を受けます。もちろん、殉教するからといって、誰でも三天層に入るわけではありません。たとえば、ある人が病気になるまで、最後まで病院や人に頼らないで神様だけに頼ったとしましょう。それでも、その心と信仰はそれぞれ違います。本当に全能の神様を愛して信頼し、主だけに頼った場合は、もし神様がいやしてくださらないで、その魂を召されたとしても、殉教したと同じだと認められることがあります。

しかし、信じられる信仰があるからではなく、聞いた知識によって、あるいは「私は信仰がある」という自尊心ゆえに病院に行かなくて、ただ持ちこたえたといえ、結果が違ってくるのです。ですから、殉教したとしても、まことの信仰と愛でいのちをささげた人でこそ、各人の心をご覧になる神様が三天層に入れて、いのちの冠が与えられるのです。

「神様が今後の事について知らせてくださったことは必ず成就します」

イ・ジェロク牧師のインタビュー、アメリカとロシアのマスコミに報道される

アメリカ霊的外交団体の会長ミハイル・モグリ博士が韓国を訪問し、今年1月26日、堂会長イ・ジェロク牧師との単独インタビューを持った。モグリ博士は韓国の霊的指導者としてイ・ジェロク牧師に「近い未来の世界情勢」について質問した。同牧師のこれに対する答えの全文である。(編集者注)

Q 近い未来の世界情勢について、博士はどう考えておられますか？

A 多くの人が未来について心配しています。そして「このなる。ああなる」と言う人もたくさんいます。

ところが、聖書を調べてみれば、今がどのような時なのかを知る事ができるし、今後どうなるかもわかります。聖書には、終わりの時が近づくと「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。」(マタイ24:7-8)とあります。まさにこのみことばが今日、そのまま成就されています。

▲私は祈りの中で神様と交わりながら、今後起きる多くのことについて知ようになります。個人的には、未来の世界情勢について、喜びと希望を与えることをお伝えできればどんなによいのにと思いますが、神様が知らせてくださった未来はそうではありません。

世界のあちこちで起きる気象異変や自然災害、また新型インフルエンザのような病気の脅威は、今後、時間が経つほど今日よりもっと深刻になるでしょう。このようなことが非常に頻繁に起きているので、人々がますます鈍くなって、深刻だと認識できずにいます。しかし、確かに世は聖書の預言のとおり、また、神様が目を覚まして祈っている人々に知らせてくださったとおり、終わりの時の前兆がますますひどくなるでしょう。

▲2009年9月頃、私は祈っているうちに神様から、2009年を送って2010年を迎える時点で、全世界が悲しむ衝撃的な事件が起きるといことを聞きました。皆さんもよくご存じのとおり、2009年末からアメリカ、ヨーロッパはもちろん、世界のあちこちが記録的な寒波と大雪、洪水と日照りのような自然災害のため、ひどい苦しみを経験してい

ます。そこにテロの脅威まで再び現れて、全世界の人々の心を痛めています。これが神様が知らせてくださった衝撃的な

勢力は大きく分けて、アメリカと中国とヨーロッパ連合(EU)になります。今、多くの分野で中国がアメリカを恐ろしい勢いで追っ

ていて、すでに追い越した分野もあります。両国間に様々な葛

藤の要素がありました。今まではそれでも互いが最大限相手を刺激しないために自制する雰囲気でした。けれど、これからはこのような局面を開閉しようという

▲そのうちの一つが北朝鮮問題に関することです。今、北朝鮮は表では大声を上げているけれど、内部ではかなり深刻な状況に直面しています。このような北朝鮮に対して、影響力をますます拡大していく国がアメリカです。ところが、これを中国が静かに見ていることはできません。

▲神様は今後の世界情勢も、政治的、経済的に日が続つてつれて困難になるだろうと言われ、各国はますます自国の利益だけを求めるので、国家間の葛藤は増して、これによる紛争とテロもますます深刻になる

▲神様は今後の世界情勢も、政治的、経済的に日が続つてつれて困難になるだろうと言われ、各国はますます自国の利益だけを求めるので、国家間の葛藤は増して、これによる紛争とテロもますます深刻になる

放するようになります。その時が遠くはないでしょう。

▲この時、北朝鮮に対する影響力において優位を占めるのがアメリカですが、中国がそれを静かに見ているだけではありません。アメリカの影響力を制約を

加えようとして、アメリカと中国はこのような形で葛藤が大きくなるでしょう。2010年に

このように世界情勢の主導権争いが激しい中、中国は自分がより大きい力を発揮するためにロシアと手を握らなければ

ならないと計算します。それで、ロシアと手を握るようになりますが、これで世界情勢においてさらに力の優位を獲得できるようになるでしょう。先に申し上げた北朝鮮問題でも、アメリカと中国が対立構図になっていくとき、中国に力を与えるのがまさにロシアです。それとともに、アメリカはますます困難になります。

▲このようにし烈な三巴戦の様相のうちに中国が次第に影響力を拡大していきますが、これは結局、アメリカとヨーロッパ連合と同時に中国を牽制させようという方法を探しますが、思うようにはなりません。このような混乱の中で、世界情勢の主導権はますます中国へ移るでしょう。ところで、中国がこのように影響力を広げていくのを静かに見られない、もう一つの勢力がヨーロッパ連合(EU)です。

▲ヨーロッパ連合はアメリカと中国の対立を見ながら、自分たちも世界舞台での位置を強化するためにはまとまるべきだという必要性を強く感じます。内部よりは外部の要因によって、自分たちも世界情勢の流れの中で主導権を握るためには、もっと強く一つにならなければ

ならないという刺激を受けるのです。このようにヨーロッパ連合も影響力を拡大していけば、自然に中国と摩擦を起こようになるでしょう。

かと言って、アメリカだけが世界情勢の主導権競争で完全に押されるという意味ではありません。アメリカも、世界のあちこちに自国の影響力を拡大しようとする方法を模索するようになります。しかし、このような動きはまた別の葛藤を招くでしょう。たとえば、これまでアメリカの影響力を大きく受けていた国々が次々と中国の影響力を受けるようになり、中国との葛藤もさらに大きくなるでしょう。また、アメリカは中東においては、ヨーロッパ連合と摩擦を起こすようになります。

このように世界情勢の主導権争いが激しい中、中国は自分がより大きい力を発揮するためにロシアと手を握らなければ

ならないと計算します。それで、ロシアと手を握るようになりますが、これで世界情勢においてさらに力の優位を獲得できるようになるでしょう。先に申し上げた北朝鮮問題でも、アメリカと中国が対立構図になっていくとき、中国に力を与えるのがまさにロシアです。それとともに、アメリカはますます困難になります。

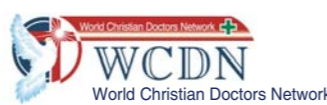
▲このようにし烈な三巴戦の様相のうちに中国が次第に影響力を拡大していきますが、これは結局、アメリカとヨーロッパ連合と同時に中国を牽制させようという方法を探しますが、思うようにはなりません。このような混乱の中で、世界情勢の主導権はますます中国へ移るでしょう。ところで、中国がこのように影響力を広げていくのを静かに見られない、もう一つの勢力がヨーロッパ連合(EU)です。



Tel: 82-2-818-7042, 7063
Fax: 82-2-818-7048
www.manmin.org
e-mail: ksy7042@hotmail.com



MANMIN TV
Tel: 82-2-824-7107
Fax: 82-2-813-7107
www.manmintv.org
e-mail: info@manmintv.org



WCDN
World Christian Doctors Network
Tel: 82-2-818-7039
Fax: 82-2-830-5239
www.wcdn.org
e-mail: wcdnkorea@gmail.com

万民 ニュース

発行人: イ・ジェロク
編集者: ビン・グンソン
www.manmin.org/Japanese
編集発行: 万民中央教会
〒152-848 韓国ソウル市九老区九老3洞 235-3
TEL: 82-2-818-7042 FAX: 82-2-818-7048